

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

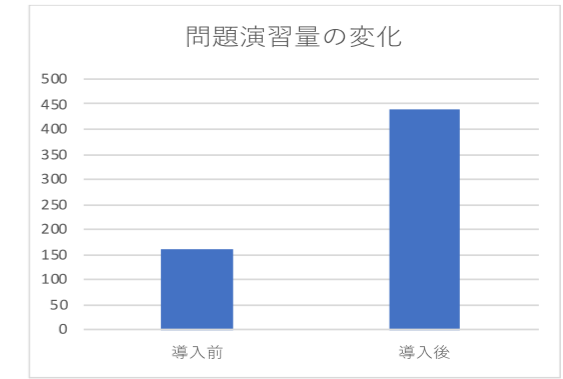
No. D-112

部門名： 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 海士町立海士小学校
活動名： チーム海士小で算数力向上 ICT で学習の個別最適化	
解決すべき課題： 【課題】 ・児童の学習状況に応じた個別最適化された指導（ICT の活用、授業設計も含めて）を学級担任のみで検討・実施するのは、他の授業の検討や校務分掌業務などがあり非常に難しい。 【仮説】 ・児童の学習定着度合いに応じた問題を児童ごとに提供し、演習量をこなせば、学習定着が進むはずである。 ・ICT を活用することで、問題の提供にかかる負荷、各児童の学力の把握にかかる負担も削減でき、結果として、学級担任の負担軽減につながる。 ・また、その取り組みを担任だけでなく、教育委員会や外部の機関と連携すれば、多面的な視点を活用した、授業計画、実行、検証、改善（いわゆる PDCA サイクル）が適切に行えるなど、教職員の育成負担の軽減にも寄与できる。	
目標・方針： ※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください ・学習アプリを活用した個別最適化学習を行えるようにして、児童に合った問題演習を確保すること。 ・「チーム学校」を意識し、学級担任だけでなく、管理職、教育委員会等からのメンバーを募り、授業案の作成、改善等を行うためのチームを作ること。 ・誰が学級担任になっても、この活動が行えるように、授業の進め方などのノウハウや各児童の学習履歴を見える化し、記録に残すように努めること。	
活動内容： ※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください ・学習アプリ「Qubena」を活用した学習定着に必要な演習量を確保できる授業案をチームで作成及び実践 ・「Qubena」で収集したデータに基づいた授業改善の研究会の実施（月 2 回） ・学習環境の整備（iPad の整備）を学校だけではなく、教育委員会も連携しながら実施	
活動の成果： ※課題設定に対して、どんな影響、変化があったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。 ・「Qubena」導入前に比べ、演習量が約 3 倍となった。（160 問→440 問）※2019 年 10 月期 ・演習量が増えたことにより、児童の中から「Qubena でたくさん演習すると授業が今まで以上に分かるようになった」という声が聞こえるようになり、授業に向かう姿勢が向上した。 ・児童ごとに①演習時間、②問題演習量、③問題正答率を出すことで、児童ごとの定着度合いを客観的に把握できるようになった。また、それをもとに、個別の手立てなどをより具体的に検討・実施できるようになった。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ※3～5 つ程度、箇条書きしてください ・ICT を活用したことで、採点にかかる時間の削減、また、ノートに問題を転記するなどの時間を削減できたことによる演習にかかる時間が増加した。 ・また、ICT を活用したことで、児童の学習定着度の測定等の負荷が削減できている。また、導入にかかる負荷についてチームで対応することにより担任にだけ過度な負荷にならないようできている。 ・学級担任と教育委員会の職員とチームで授業改善を行うことで、授業改善へのスピードが上がる、改善に向けた業務負荷が削減された。（毎週、データを見ながらの小規模の振り返り会、隔週で校内での振り返り会を実施することで、授業改善が効率よく進められた。）	

<写真、図表添付欄>



iPad を活用した演習風景
 ※児童たちは、難なく学習を進めている



問題演習量が、導入前に比べて約 3 倍
 ※採点時間がなくなる、問題のノート転記する時間がなくなったことも要因と見られる。

時間	授業内容
0-5	小テスト（プリント）
5-35	教科書を活用した演習 ・学級担任による講義 ・児童たちによる学び合い ・教科書を活用した演習 ※平均 2 問程度
35-45	・演習 Qubena を活用した演習 ※平均 30~40 問

授業構成（一例）
 ※これまで、学級担任が授業づくりで大事にしてきたことを残しながら、演習量を Qubena を活用して確保した。

（児童の声）
 ・Qubena でたくさん演習できると算数が分かるようになった。
 ・どれだけ演習できたか、どれだけ正解できたかが数値で分かる面白い。

（教員の声）
 ・演習が多く取れると、理解度が高まっている。
 ・教育委員会の方などに授業を見てもらうことで、客観的な視点をもらった上で授業改善ができるので良い。
 ・各児童の演習時間や演習問題数などが分かることで、児童の学習意欲にも影響が出てきた。



・チーム（学級担任、教育委員会、外部機関）での授業案作成または改善を行った。

・授業を担当以外が観察し、助言する機会の確保や演習量、正答率、演習時間をデータで見ながら授業改善を行うことができるようになった。

・町内の 3 校（海士小学校を含めて小学校 2 校、中学校 1 校）がすべて Qubena を導入している。（町全体の取り組みとして）そのおかげで、学校だけではなく、校種も越えて授業改善等に関する意見交換もできるようになった。（各学期に 2 回程度）